

## 再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道10号 <small>かごしまきた</small> 鹿児島北バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	起点：鹿児島県鹿児島市吉野町花倉 <small>かごしまけんかごしましよしのちょうけくら</small> 終点：鹿児島県鹿児島市小川町 <small>かごしまけんかごしましおがわちょう</small>			延長	4.4km
事業概要					
鹿児島北バイパスは、鹿児島市と霧島市等をつ結ぶ唯一の幹線道路である国道10号の交通需要に対応した十分な交通容量を確保し、交通混雑の緩和に大きく貢献するとともに、交通安全性の向上等を目的とした事業である。					
S50年度事業化		S56年度都市計画決定		S56年度用地着手	
H4年度工事着手					
全体事業費	約450億円	事業進捗率	19%	供用済延長	1.2km
計画交通量	39,400～39,700台/日				
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年	
	(事業全体) 2.8 (残事業) 1.5	(残事業)/(事業全体) 238/390億円 (事業費：229/375億円) 維持管理費：9/15億円	(残事業)/(事業全体) 365/1,083億円 (走行時間短縮便益：336/941億円) (走行経費減少便益：19/117億円) (交通事故減少便益：9.9/25億円)	平成23年	
感度分析の結果					
【事業全体】		交通量：B/C=2.7～2.9（交通量±10%）		【残事業】	
		事業費：B/C=2.6～2.9（事業費±10%）		交通量：B/C=1.3～1.8（交通量±10%）	
		事業期間：B/C=2.6～3.0（事業期間±20%）		事業費：B/C=1.4～1.7（事業費±10%）	
				事業期間：B/C=1.3～1.8（事業期間±20%）	
事業の効果等					
①交通混雑の緩和					
・鹿児島北バイパスの整備による交通混雑の緩和					
・並行現道の旅行速度の向上					
②交通安全性の向上					
・死傷事故件数の減少					
③リダンダンシーの確保					
・災害時のリダンダンシーの確保が図られ、信頼性の高い交通ネットワークを構築（H5.8集中豪雨による全面通行止め21日間）					
④物流効率化の支援					
・国分上野原テクノパーク～鹿児島港間の所要時間の短縮					
⑤観光の支援					
・主要観光スポットへのアクセス向上に寄与					
⑥救急医療活動の支援					
・始良市から第3次救急医療施設（鹿児島市立病院）までの救急搬送を支援					
・救急医療活動のアクセス時間の短縮					
関係する地方公共団体等の意見					
鹿児島市長をはじめとし構成される鹿児島県市長会より積極的な整備促進の要望を受けている。（平成21年6月3日）					
県知事の意見：					
「対応方針（原案）」案の「継続」については、異存ありません。引き続き、早期完成に向け、所要の予算を確保されたい。					
事業評価監視委員会の意見					
審議の結果、事業継続					

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口は横這い。国道10号の交通量は横這いで推移しており、朝・夕のラッシュ時には依然として交通混雑（混雑度：2.14）が発生している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成22年度末の事業進捗率は、事業費ベースで約19%であり、そのうち用地進捗率は97%に達している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

当該地域の世界遺産暫定登録に伴う、景観検討を行っているところであり、平成24年度以降、地元協議等を行い道路構造の決定を図る予定。

施設の構造や工法の変更等

新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策による着実なコスト縮減。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。